HisayamaLIFE Newsletter

公益社団法人久山生活習慣病研究所

第19号

2024年5月20日発行

ごあいさつ

今年度は、当法人が2005年に発足して20年の節目にあたります。この間、私たちは、1961年より九州大学と福岡県久山町が緊密な連携のもとで継続している同町における健診事業と生活習慣病の疫学調査(久山町研究)、ならびに九州大学の臨床研究の支援・推進活動を行ってまいりました。この法人の取り組みは九州大学と久山町のきずなを深め、町の健診事業および久山町研究の発展とともに、町民の健康増進に大きく貢献してきたといえます。さらに、九州大学の疫学・臨床研究に民間企業を加えた共同研究を推進してこれらアカデミア研究の財政基盤を強化し、その研究成果の社会実装にも寄与してまいりました。



久山町では、この度の新型コロナ感染症のパンデミックを契機として、長年継続されてきた剖検事業が2022 年度をもって終了しました。その経緯は次のトピックス欄で取り上げています。私たちはこれからも社会の変化 に柔軟に対応しつつ、生活習慣病の発症予防・重症化予防のエビデンスを生み出す活動を継続し、国民の健康増 進と健康寿命の延伸に貢献できますよう一層の努力を重ねてまいる所存です。今後ともご支援、ご鞭撻を賜りま すようよろしくお願い申し上げます。 代表理事 清原 裕

トピックス

久山町剖検事業終了記念式典が開催されました

久山町で1962年に始まった剖検事業が2022年度をもって終了しました。2023年11月18日に、レスポアール 久山において記念式典が開催され、これまでこの事業にご協力いただいた皆さまへ改めて多大なる感謝の意を表 するとともに剖検事業の歴史と意義を振り返り、未来へその思いを伝えていく決意を新たにしました。



この町では、1961年に九州大学、町役場・町民、地元開業医の連携のもと、脳卒中の実態調査の一環として「成人病検診(現在の生活習慣病予防健診)」が始まり、翌年に「病理解剖(剖検)」が開始されました。その後この取り組みは脳・心血管疾患、がん、認知症など生活習慣病全般に広がり、その成果は町民の生活習慣病の予防のみならず、世界の予防医学の発展にも大きく貢献してきました。

そのような中、2020年に発生した新型コロナウイルス感染症のパンデミックは、健診・剖検事業を基盤とした「ひさやま方式」の健康管理のあり方を見直すきっかけになりました。パンデミックにより剖検事業を一時中止した間に九州大学と町で慎重に協議を重ねた結果、剖検事業を終了する決断に至りました。近年の画像診断技術などの進歩で死因を含めた臨床診断の精度が大幅に向上したことから、剖検の必要性が低下したことがその主な理由です。







西村 町長

清原 裕 ヘルスC&Cセンター長

二宮 利治 教授

式典では、西村 勝町長のあいさつののち、ヘルスC&Cセンター長 清原 裕 が『久山健診と研究の歴史』、また九州大学衛生・公衆衛生学教授 二宮 利治 が『今後の久山町における健康づくりへの取り組み』をテーマにそれぞれ講演を行いました。また、山田小学校6年生が制作した絵本「私たちと久山の健康ものがたり~未来を支えるカルテ~」の久山中学校放送部による朗読や、久原小学校音楽クラブの皆さんによる「ふるさと」の合唱が行われ、先人たちの功績をたたえ未来に向けたメッセージが感じられる式典となりました。

割検事業が始まった当時から続く、「医学の発展に貢献できるなら進んで協力しよう」という町民の皆さまの 崇高な精神とそれを紡いできた思いを受け継ぎ、久山町の健診では2023年度から胸部CT健診、心不全マーカー を含む他の自治体にない検査項目を取り入れるなどの新たな挑戦に取り組んでいます。

秦 淳 先生、吉田 大悟先生、教授ご就任おめでとうございます

長年にわたり久山町研究室のスタッフとして久山町健診事業と久山町研究に従事されました秦淳先生、吉田大悟先生が、2024年4月1日付でそれぞれ九州大学ならびに福岡学園福岡看護大学の教授に就任されました。心よりお祝い申し上げます。



九州大学 大学院 医学研究院 医療経営・管理学講座 教授 秦 淳 先生



学校法人福岡学園 福岡看護大学 地域・在宅看護部門 教授 吉田 大悟 先生

2023 (令和5) 年度の活動

久山町健診事業・久山町研究

■ 健診事業

久山町では、今年度の生活習慣病予防健診は2023年7月6日から9月30日までの計34日間、久山町ヘルスC&Cセンターで行われた。健診は予約制とし、例年通り、問診、身体計測、血圧測定、心電図検査、診察、検尿、採血、糖負荷試験、歯科健診を行った。加えて、本年度は、新たな検査項目として血清NT-proBNP(心不全マーカー)測定、緑内障検査、ストレスチェック、食事・栄養チェックも実施した。40歳以上の受診者数は 2,666人(受診率49%)であった。また、2023年10月27日、28日、11月4日の3日間、50-65歳の希望者を対象に低線量肺ガンCT検診を実施し、104人に



検査を実施した。当法人は、これらの久山健診事業および久山町研究の追跡調査を支援した。

■ 腸内細菌叢と生活習慣病の関連に関する共同研究

株式会社 明治および九州大学との共同研究契約を改めて締結した。この共同研究では、これまで実施していた腸内細菌叢とフレイル、筋力低下に関連する腸内細菌叢の検討を継続するとともに、2018年に行った腸内細菌叢研究に参加した1,600人の糞便DNAサンプルを用いて、腸内細菌叢に関するショットガンメタゲノム解析を実施した。今後これらのデータを活用して、生活習慣病等に関連する腸内細菌叢について詳細な検討を行う予定である。

■ 久山町疫学研究成果のITツールを活用した社会実装および疾患予防に関する共同研究

昨年度に引き続き、DeSCヘルスケア株式会社および九州大学との共同研究において、久山町住民を対象に久山町研究の成果を基に開発されたITツールを活用した疾患予防に向けた取組みを継続した。また、DeSCヘルスケア株式会社およびその関連会社である日本テクトシステムズ株式会社と脳MRI画像から認知症発症リスクを評価するシステムの開発のための取り組みを開始した。

■ 生活習慣がwell-beingに及ぼす影響に関する共同研究

キューサイ株式会社およびヒュービットジェノミクス株式会社との共同研究契約において、生活習慣がwellbeingに及ぼす影響に関する検討を開始した。そのために2023年11月に40-64歳の久山町住民533人を対象に、アンケート(生活状況、排便・睡眠状況、食事・飲水摂取、生活満足度など)、立ち上がり検査、肌検査を実施した。

■ 性ホルモンおよび生活習慣が肌状態に及ぼす影響に関する共同研究

株式会社 Hakuhodo DY Matrixとの共同研究契約において、性ホルモンおよび生活習慣が肌状態に及ぼす影響に関する分析を開始した。2023年の11月に40-64歳の久山町住民533人を対象に、性ホルモン測定、アンケート(生活状況、排便・睡眠状況、食事・飲水摂取など)、肌検査を実施した。

■ 尿中神経伝達物質と抑うつ症状の関係に関する共同研究

株式会社LSIメディエンスとの共同研究契約において、尿中神経伝達物質と抑うつ症状との関連に関する検討を開始した。2023年度は、前年度までに測定を完了した尿中神経伝達物質の測定値を用いて、尿中神経伝達物質と抑うつ症状発症の関係を検討した。

■ 生活習慣病及び認知症発症に関する生活因子の検討に関する共同研究

九州大学等との共同研究契約に基づいて、地域住民において、生活因子(水分摂取や野菜やキノコ類摂取、血糖値等)と生活習慣病および認知症発症との関係を検討する予定である。本年度は、血糖値と認知症、フレイル、サルコペニアなどの老年期疾患との関係を検討した。さらに、2012年に久山町生活習慣病予防健診を受診した住民3400人の保存血清を用いて、キノコ成分の血中濃度測定を行った。

■ 日本医療研究開発機構(AMED)認知症研究開発事業「健康長寿社会の実現を目指した大規模 認知症コホート研究(JPSC-AD)」の支援

JPSC-ADは、全国8地域(青森県弘前市、岩手県矢巾町、石川県中島町、東京都荒川区、島根県海士町、愛媛県中山町、福岡県久山町、熊本県荒尾市)における地域高齢者1万人からなる大規模認知症コホート研究を設立し、統合された調査データを用いて認知症の危険因子を同定することを目的としている(研究期間:2016年4月~2026年3月)。さらにこのプロジェクトでは、従来型のコホート研究に、ゲノム・オミックスに関する基礎研究の手法と知見を融合させ、認知症の病態解明を図ることを目指している。

本法人は、2023年度は前年度に引き続き、上記の国家プロジェクト研究に参画しデータベースの構築・管理・整備の支援活動を行った。

■ 全国認知症コホート追加研究の支援

本研究では、九州大学等との共同研究契約に基づいて、上述の「健康長寿社会の実現を目指した大規模認知症コホート研究(JPSC-AD)」の調査対象者について質問票を用いた追加調査を実施している。それにより、認知症や心血管病などの疾患発症に及ぼす要因を明らかにすることを目的とするものである。

2023年度は前年度に引き続き本研究に参画し、九州大学以外の施設のデータ収集・管理の支援業務を行った。

(文責 二宮利治)



久山町研究スタッフ

福岡脳卒中データベース研究 Fukuoka Stroke Registry: FSR

■ 多施設共通データベースを用いた脳卒中に関する臨床疫学研究

急性期脳卒中患者の前向き登録研究であるFSRには、2006年7月から2019年9月末日までに17,074人の 患者が登録されており、現在、九州大学病態機能内科学脳循環研究室が中心となってデータ管理や追跡調査 が継続されている。2023年度は追跡16年目となり、当法人では、久山町研究の疫学・臨床研究のノウハウ を生かしてFSRの支援を引き続き行った。

■ 脳梗塞におけるバイオマーカーの検証に関する共同研究(VREBIOS)

FSRで行われた一連の共同研究 (REBIOS、REBIOS 2、R-REBIOS、VREBIOS) の継続研究として、FSRに 登録された脳梗塞患者の臨床情報および検体を用いて脳梗塞の病態に関連するバイオマーカーの研究を行っている。

(文責 北園孝成)

福岡県糖尿病患者データベース研究 Fukuoka Diabetes Registry: FDR

糖尿病患者を対象としたコホート研究であるFDRには、九州大学病院および関連する糖尿病が専門の医療機関の計16施設に通院中の糖尿病患者 5,131人が登録されている。2008年からの登録期間に、食事、運動、メンタルヘルスを含む臨床情報ならびに血液、尿、DNAを収集し、コホート集団として以後16年にわたり追跡調査を継続している。当法人は、2023年度も前年度に引き続き、九州大学病院および関連施設において緊密な連携のもと構築された研究体制を通じて対象者の追跡調査を継続的に支援した。

(文責 大隈俊明)

福岡腎臓病データベース研究 Fukuoka Kidney disease Registry: FKR

当法人は、九州大学病態機能内科学(九州大学病院)およびその関連施設と共同で、腎臓病患者を対象とした臨床研究(福岡腎臓病データベース研究、FKR)を推進し、以下のプロジェクトを行っている。

① 新規腎生検症例登録による腎生検コホート (FRBR)

九州大学病院および研究参加施設における新規腎生検症例のデータベースへの登録は2019年1月末に完了 し、その総数は310人であった。2023年度も登録された症例の追跡調査作業の支援を行った。

② 保存期CKD症例登録による前向きコホート(保存期FKR)

2012年から2017年に4,476人の保存期慢性腎臓病 (CKD) 患者を登録した。コホートの追跡調査は2022年度末に完了し、2023年度は収集した追跡資料のデータベース化に関わる作業の支援を行った。

③ 既存腎生検症例による後ろ向きコホート

九州大学病院と関連施設において1995年から2015年の間に生検により組織診断された腎疾患患者のうち、これまでIgA腎症1,500例、糖尿病腎症113例、巣状糸球体硬化症253例をFKRに登録した。2023年度はこれら対象患者の追跡調査を前年に続き支援した。

(文責 中野敏昭)

役 員 (2024年5月1日現在)

代表理事

清原 裕 久山町ヘルスC&Cセンター長

九州大学 名誉教授

副代表理事

北園 孝成 九州大学大学院医学研究院

病態機能內科学 教授

西村 勝 久山町長

常務理事

二宮 利治 九州大学大学院医学研究院

衛生・公衆衛生学 教授

理事

飯田 三雄 九州大学 名誉教授

石橋 達朗 九州大学 総長

上野 道雄 独立行政法人国立病院機構

福岡東医療センター 名誉院長

小田 義直 九州大学大学院医学研究院

形態機能病理学 教授

角森 輝美 学校法人活水学院活水女子大学

看護学部看護学科 特別専任教授

梶山 千里 公立大学法人福岡女子大学

前理事長兼学長、名誉教授

只松 秀喜 久山町議会 議長

貫 正義 九州電力株式会社 相談役

蓮澤 浩明 公益社団法人福岡県医師会 会長

監事

佐伯 久雄 久山町 副町長

中西 裕二 中西裕二公認会計士事務所 所長

50音順, 敬称略

ご寄付をいただきありがとうございます

2023年度は、総額 5,890,000円 の寄付を頂戴しました。この場をお借りして改めて感謝の意を表します。

(順不同)

個人 天野 功様

原 裕介 様 他 匿名 1名様

法人 社会医療法人雪の聖母会 聖マリア病院

理事長 井手 義雄 様

医療法人医心会 福岡腎臓内科クリニック

理事長 平方 秀樹 様

医療法人宏洲整形外科医院

理事長 宏洲 士郎 様

みかさ社会保険労務士法人

代表社員 安藤 龍平 様

医療法人いわい内科クリニック

理事長 岩井 啓一郎 様

当法人は、九州大学病態機能内科学ならびに衛生・公衆衛生学を中心とした臨床研究と疫学研究の成果を活用し、生活習慣病の予防と治療法の開発を通じて国民の健康福祉の推進に貢献することを目的としています。事業活動にご理解とご賛同をいただき、是非ご寄附をお寄せくださいますよう心よりお願い申し上げます。

尚、当法人への寄付金は、特定公益増進法人への 寄付金として、所得税 · 法人税の税制上の優遇措 置が適用されます。 詳しくはホームページ www.hisayamalife.or.jpをご覧ください。

HisayamaLIFE Newsletter

公益社団法人 久山生活習慣病研究所

〒811-2501 福岡県糟屋郡久山町大字久原1822-1

第 19 号

www.hisayamalife.or.jp

<九州大学内事務局>

〒812-8582 福岡市東区馬出3-1-1 九州大学医学研究院 衛生·公衆衛生学内 TEL 092-642-6284 FAX 092-642-6108